

馬優先主義を学んだ米国競馬視察研修

追分ファーム 渡邊 豪

米国競馬事情視察研修に派遣していただくことが決まり、初めての海外ということもあって最初はすごい緊張感がありましたが、海外の牧場や競馬場を視察できるということを知り、いろいろなものをこの目で見て、少しでも今後の仕事に活かすことができたらと思いました。

成田を飛び立って最初に向かった先はケンタッキー州のレキシントン。レキシントン空港に着陸して到着ロビーに向かうと、通路には競馬関係の広告が数多くあって、この時点で日本とは何か違うなと感じました。外に視線を移すと馬を曳く人の銅像が何体か目に入り、さすが馬産地レキシントン、馬と地域が密着していることを早くも実感しました。空港をあとにして車が目的地に向かって走り出すと、夜ということもあってうっすらとしか見えませんが、道路沿いには牧柵や厩舎が見え、翌日から始まる牧場視察がさらに楽しみになってきました。

アメリカの牧場の第一印象は、敷地の整備がすごく行き届いていて放牧地も本当に広く、ダイオウなどの雑草もほとんど見当たらない、とても綺麗な放牧地だということでした。

厩舎の造りは日本では見たことがないほど豪華でお洒落なものが多く、1棟あたり馬房が2～4程度の小さな厩舎がいくつも建っているなど贅沢な土地づかいの牧場が数多くあって、アメリカだからこそできることだと思いながら、併せてこの国の土地の広大さを実感しました。

馬見せ場までの馬道も、インターロッキングブロックと呼ばれるゴム製のブロックを組み合わせたものを使っている牧場がたくさんありました。これは非常に見栄えがいうえに、安全性の面でも十分に配慮されているように感じました。

種牡馬を見学するまえから驚きが連続しましたが、実際に種牡馬を見せていただいて思ったことは、かねがね聞いていた話とは違って、比較のおとなしい馬が多かったということです。話を聞いて抱いた種牡馬の印象には、猛獣のような少し怖いイメージがありましたが、持ち手の上手さもあるとは思いますが、指示にきちんと従って堂々とした立ち振る舞いを見せてくれた従順な種牡馬たちに感動し、人と馬との信頼関係の深さに感銘を受けました。

牧場を何カ所か見学していくと、放牧地で馬見せするところがあって、自分には初めてのことであったので少し違和感を覚えました。馬にとっては馬見せまでの待ち時間は、狭い馬房にいるより広い放牧地で過ごすほうがストレスも少ないはずで、見学する人も馬の自然な動きを見ることができると、馬にとっても見る側にとっても好ましいことだと思

いました。ただこれは、たった 1 頭で放牧されている種牡馬だからこと可能なことで、多頭数で放牧している当歳馬や 1 歳馬では難しいなとも感じました。

台風の影響などで天候が悪く肌寒い 3 日間ではありましたが、そんな悪天候も気にならないほど数多くのことを学び、感じる事ができた、充実した牧場視察でした。

3 日間の牧場視察を終えて、次はブリーダーズカップを観戦するためにカリフォルニア州のロサンゼルスに向かいました。

ブリーダーズカップが行われるサンタアニタパーク競馬場の建物も、お城を思わせるような豪華な外観で、過去の名馬たちの銅像も数多く置かれていて、この競馬場の大きさと歴史を肌で感じました。施設内もとてもにぎやかで、催し物もたくさん行われていて、競馬観戦というより、パーティに来たのかと勘違いしてしまいそうになりました。

競馬場の施設も日本とはかなり異なっていて、パドックに隣接した装鞍所は一般客からも見える場所にあり、関係者以外でも装鞍の様子を観察できるなど非常に開放的でした。馬と観衆との距離が非常に近く、馬の状態も確認できて大変良いことだと思いましたけれど、それとは対照的にパドックの周回の長さには驚かされました。少ないときは 2～3 周程度のパドック周回で終了することもあり、ここでも馬を優先する姿勢が貫かれているように感じました。

馬のことを考えるという点では、リードホースの存在が大きいと思います。馬場入場後もゲートインまでリードホースがしっかりとサポートしているので、いれ込む馬も少なかったし、放馬のようなアクシデントの減少にも効果があるはずです。実際にレースを観戦すると、いれ込みの激しい馬がほとんど見当たらなかったことから、リードホースの存在は非常に大きいと思いました。日本でもリードホースを導入すれば、いれ込みや事故の予防につながり、馬それぞれが持っている能力を今まで以上にレースで発揮できるのではないのでしょうか。2 日間のブリーダーズカップで米国競馬のスケールの大きさもさることながら、馬の能力を引き出す工夫などを見ることができて感心と感動の連続でした。

今回のアメリカ研修は、自分にとって本当に学ぶべきことや新たな発見も含め、とても内容の濃い充実したものであり、こうした機会をいただけたことに対して感謝の気持ちでいっぱいです。この研修で得た経験を自分自身のさらなる成長につなげ、今後の仕事に活かしていけるよう努力していきたいと考えています。

最後になりますが、今回の研修に参加させていただきました吉田晴哉社長、引率していただきました土井社長、JTB の鈴木さん、いっしょに参加した皆様に心より感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございました。